

フサジュンサイの実生の観察

浜島 繁隆
(高蔵高校)

フサジュンサイの実生の観察例は非常に少ないように思われる。山城水草誌で三木は、本種の実生はGoebel (1983) の報告にあるのみと述べ、花、葉茎、種子などを詳しく図示しているにもかかわらず、実生の図がないのは、恐らく観察の機会がなかったものと思われる。最近、スイレン科の実生から類縁を検討した Hains & Lye (1975) や伊藤 (1982) の論文にも本種の実生にはふれられていない。

私は、1985年10月26日名古屋市東区の塚の杵池で、フサジュンサイの種子28個を採集することができた。これを水に入れ室内に保存しておいたところ、翌年5月3日、19個の種子が発芽した。そこで発芽から約1か月にわたり観察したのでつぎに報告する。

観察結果

フサジュンサイの種子は3×2mm程のだ円形で、表面に多数の疣状突起があり、全体に赤紫色の斑点がみられる。この斑点は古くなると消え、全体に黒っぽい色に変化する。

発芽は種子の端にある発芽孔の蓋がとれて芽が出はじめる。最初、葉身のない針状の第一葉が伸びてくる。その後、上胚軸が伸び、下方には幼根(主根)が伸びる。このような発芽形態は伊藤 (1982) のヒツジグサの場合とほぼ同じであった。第一葉の表面には赤紫色の斑点があり、長さ1.6~1.8cm程に伸長する。こ

の葉が長さ6mm程になった頃、その基部から第二葉が伸長をはじめる。これはうす緑色、幅0.8~1.0mm、長さ1.5~1.9cmの長披針形で、主脈が中央に走り明らかな

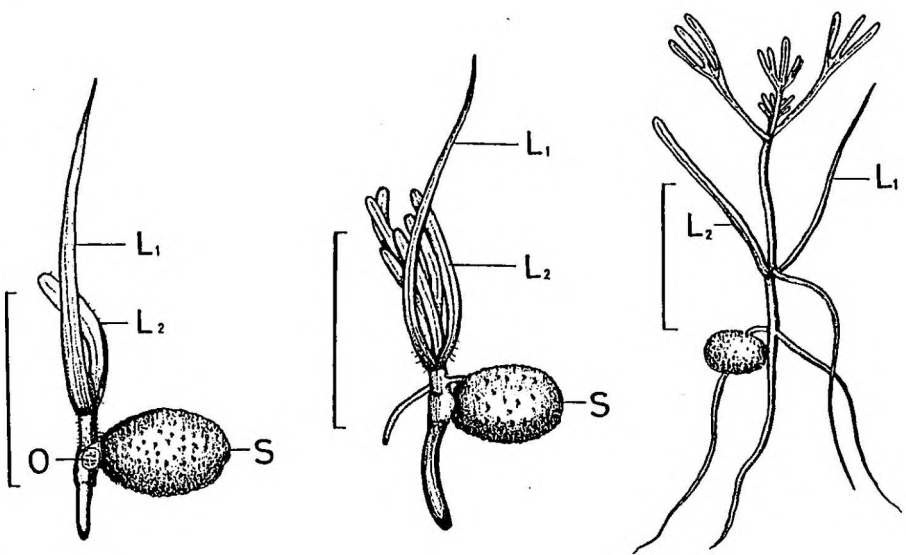
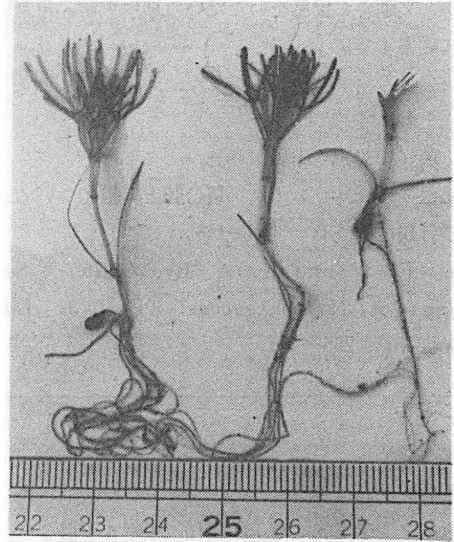


図1. フサジュンサイの実生 L₁~2 : 第1~2葉 S : 種子 O : 蓋 (operculum)。スケールは1cm。